

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

こうして、毎日、私が考えたり、感じたりしていることを分かち合うことができ、とても嬉しく思っています。今日、紹介したいのは、私の大好きな絵本「せかいのひとびと」です。オランダ出身のアメリカー人ピーター・スピアーが絵と文を書いています。(日本語訳 松川真弓)

この本は、世界は違ったものがたくさんあって、とても豊かだということを、独特の絵と楽しい話し方で伝えています。絵を見ているだけでも飽きることのない、子どもから大人まで楽しめる本です。世界に何億人いようが、一人として同じ人間はいないという書き出しに始まり、まず人の顔がたくさん出てきます。目・鼻・口・耳など、人間の身体についての違いをユーモアたっぷりに紹介します。続いて、着るもの、住むところ、食べ物、遊び、宗教、そして、文字や言葉にいたるまで、ページをめくる度に、人間がそれぞれ生きてきた土地で築き上げてきた文化がそれぞれに違っていることに、読者をどんどん引き込んでいきます。

たくさんのそれぞれに違ったものを紹介した後、「みんな 同じ地球で くらしているんだし 同じ空気を すって 同じ太陽に てらされているんだ」という言葉が目に入ります。もちろん 頭では知っていることですが、会ったこともない、これほどそれぞれに違ったものを一杯抱える世界の人々に、改めて親しみを感ずる場面です。

最後の 4 ページが特に私の好きなところでは、あまり色のない街の絵に、「だれもが 思っていることも 食べるものも 着るものも なんでも ぜんぶ 同じだったら 死ぬほど たいくつ。」そして、ページをめくると、色とりどりの活気あふれる街に加えて、こんな言葉が飛び込んできます。「ほらね わたしたち みんながみんな それぞれ こんなに ちがっているって すてきでしょう?」

新型コロナウイルスの問題を抱える世界が、互いを警戒する気持ちを強め、他の国を責めたり、批判しあったりするのはとても悲しいことです。今回のことで、ウィルスに国境はないのだということを、誰もが感じていることでしょう。今こそ、世界の人々が協力しながら乗り越えていくことができますように。そして、違ったものがたくさんあることの豊かさがもっと尊重される世界を築いていけますように。

